

# 豊岡偉人伝 5

私たちの暮らしの発展に尽くし、近代日本の礎を築いた人、スポーツ・芸術の普及発展に心血を注いだ人など、豊岡にはさまざまな先人たちの心が息づいています。

その先人たちに学び、志を引き継ぎましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

## 書道と世界の芸術を結びつけた前衛書の巨匠 森田子龍

### 森田子龍

(1912～1998)

上陰出身 書家



1912年上陰に生まれ、幼少期を過ごしました。若くして書を志し、26歳で上京の後、書の近代化に取り組んでいた上田桑鳩に師事し、第2回大日本書道院展で、最高賞である推薦金賞を受賞しました。さらに日満支書道展でも文部大臣賞を受賞するなど華々しいデビューを飾りました。

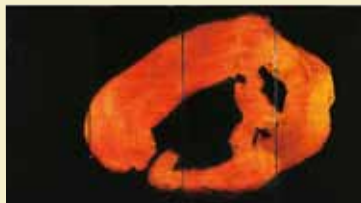
戦後は、活躍の基盤を京都へ移し、書の啓発普及・革新を目指した「墨美」、「墨人」といった書雑誌を発刊し、さらに同人を募って前衛書道グループ「墨人会」を結成するなど書壇に新しい風を吹き込みました。中でも、「墨美」、「墨人」の発刊は書と国内外の抽象画家たちとの活発な交流を生み出し、森田氏の存在が海外でも広く知られるきっかけになりました。

表面的な字形にとらわれない生命感に富んだ「墨象」という新しい世界を切り開き、ヨーロッパを中心に海外でも多くの展覧会を開催するなどの功績が認められ、京都府美術工芸功労者、京都文化功労者、兵庫県文化賞などを受けています。

1995年には阪神大震災に関する神戸新聞と京都新聞の合同企画記事「生きる」の題字を書くなど、晩年になっても精力的に活動していましたが、1998年に86歳で逝去しました。



▲「鳥」1975年



▲「圓」1967年



▲「生きる」1995年

### ●ふるさと豊岡への思い

上京し東京で書を学んだ後に、戦争による疎開で再び豊岡で暮らすこととなります。疎開が終わり京都へ移り住んだ後も、故郷への愛情を雑誌に「忘れえない人々で満ちている」「円山川沿いの散策は私の生活のオアシスであった」などと記しています。故郷を思う気持ちから、作品や遺品を市へ多数寄贈しています。

### ●書碑「忍」

母校である五荘小学校の校庭には、昭和50年度卒業生一同により森田氏の書である「忍」の書碑が立てられました。



▲五荘小学校書碑「忍」

碑文の解説には「人は忍の徳を身に付けてこそ真の自由に目覚め人間らしく積極的に生きていくことができる」と書かれています。

### ●生誕100年 森田子龍展

～但馬・豊岡が世界に誇る美の先駆者・その軌跡～

今年度、生誕100周年を迎えることを記念して展覧会を開催します。市が所蔵している作品を中心に代表的な作品を展示するとともに、遺品を展示するなど森田氏の歩みを顕彰する内容を計画しています。

■日時 10月27日(土)～12月9日(日)

午前9時～午後5時

※11月以降の月曜日休館

■会場 円山川公苑美術館(小島)

■入場料 大人350円、高校生・65歳以上180円、中学生以下無料

■イベント 森田氏が結成した書道団体「墨人会」の方たちによる書道パフォーマンスを実施



▲制作風景

※詳細は、10月10日発行の市広報紙および本展チラシをご覧ください。

●発行／豊岡市  
☎079623-1111  
FAX23-1124  
●編集／政策調整部秘書広報課

〒668-8666  
兵庫県豊岡市中央町2番4号  
URL http://www.city.toyooka.lg.jp

(総合支所)  
・竹野 ☎47-3111  
・出石 ☎52-3111  
・但東 ☎54-1100  
・城崎 ☎42-0001  
・日高 ☎54-1100  
・白旗 ☎54-1100